

新年 あけましておめでとうございます。

2010年もういよいよ活動開始です。私には 毎年必ず 初心に帰って年頭にそっと耳を傾けることがあります。

今さらのように 20 世紀は人類による自然破壊の世紀であったと思います。人類以外の動物や植物は本来ならば 変わらぬ営みを続けていくはずであったのに、人類による自然破壊の影響で変化せざるをえなかった……生まれ故郷の川を上っていき すべての力を振り絞って産卵し、命果てる鮭の群れ……その死骸を 命の糧とする獣たちや 鳥たち こうした自然界の循環を将来にわたって持続させることができる源は豊かな森なのです……森が消えたなら 雨を集めて保たれる水源が涸れ、やがて鮭の産卵できる川も消えていくのです……

今、多くの人が 50 年 100 年先の 森を描いて 自分なりにできるなんらかのアクションを起こしたなら、必ず 未来は変わってくるでしょう。ひとりでできることなんて大火に注ぐ一滴の水かもしれないけれど ゼロではない ゼロからは決して何もうまれない、多くが集まれば大河にだってなる可能性があるはず……こんな想いで 15 年くらい前から、私もモンゴルでの森づくりに挑んできました。一歩ずつ とともに歩む仲間と出会いながら……

以前 ある番組の中で あなたにとって生活必需品って何ですか？という質問に

富良野の自然塾の若者たちの答えは

①水 ②火 ③ナイフ ④食べ物。

そして同じ質問を都会に住む若者に行ったところ

①金 ②携帯電話 ③テレビ ④車

だったそうです。面白い結果であるとともに、やはり人工的なものに100パーセント縛られずに、自然環境についても もっともっと大切に、身近に思える若者が増えるような教育が工夫される必要があるとつくづく思いました。

「一人でも多くの人たちに 未来の美しい森を 描いてほしい！！」

未来からのこんなメッセージが聞こえてくるような気がしてならないのです。



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

2010年 1月5日

GNC Japan スタッフ 矢野明子

GNCは2月7日(日)「江ノ島アジア映画祭 2010」モンゴル国の旧正月”ツアガン・サル”を祝うイベントに出展しました。



当日の天気は晴天で江ノ島の景色がよく見えました。



今回参加のモンゴル国の女の子、近くで初めて見る海に感激！
真っ白な雪衣の富士山を背景に撮影。



会場の神奈川県立かながわ女性センターホール。



屋外にはモンゴル国の移動式住居ゲル設営中。



GNCは2階にて展示。



GNCの活動内容の展示「人づくり、森づくり、苗畑づくり、公園づくり」



ゲル完成。



ゲルの中では元モンゴル留学生会 会長による馬頭琴の演奏。



つきたて餅の無料サービス。



柔らかくて美味しいお餅でした。



1 階ホールでは藤沢炒麺による地元で収穫された材料で作ったモンゴル料理店。



出来たてマントンボーズとホーショーロー。



GNC展示、今までの活動内容の説明中。



モンゴル衣装体験コーナー、試着中。



モンゴル衣装体験コーナー、ファッションショー 馬頭琴演奏
モンゴルドキュメンタリー映画「プージェ」上映とモンゴルを
満喫できる一日でした。



GNCの展示は 16 時で終了して江ノ島の展望台行きました、
展望台から見た夕方の富士山と海。

フォトリポート GNC Japan ネットワーク部

.....

多くのモンゴルファンのご来場に驚き、GNC 展示コーナーへも
たくさん方々に御越しいただきました。
今後に繋がりそうな確かな手ごたえもあり 充実した一日でした。

皆様より 温かいご寄付を頂戴しましたので、以下に御報告いたします。

絵葉書売上 . 3 部 600 円
クリアファイル売上 7 枚 1750 円
計 2350 円→2150 円
(うち主催側へ寄付 200 円)
募金 7550 円
総計 9700 円

今後とも GNCの応援をお願い致します。



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

期間：2010年2月11日(木)～13日(土)

【GNC 三宅島スタディー下見ツアーの目的】

①GNC スタディーツアーの打ち合わせ

・モンゴル国留学生達に三宅島で行われている緑化活動を知ってもらい、モンゴル国・日本国での緑化を担ってほしい。

②三宅島の島民や緑化に携わっている人達との交流。

③三宅島の噴火の歴史、2000 年大噴火の被災状況を知る。

④植林候補地の視察。

【三宅島の場所について】

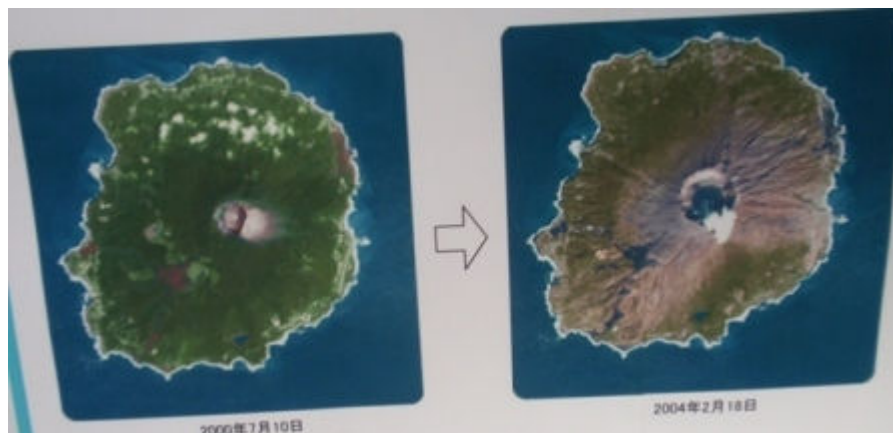
東京都港区の竹芝桟橋より船で6～7 時間程 180Km の場所にあります、周囲は約 38Km、面積 55.5Km、だいたい東京都足立区ほどの大きさです。

人口は約 3000 人、暖流の黒潮の影響で 冬は暖かく夏は涼しい気候です。ダイビング・バードウォッチング・釣りなど楽しめます。

【三宅島の現状】

2500 年ぶりと言われる大噴火が 2000 年(平成 12 年)に発生して、島の樂園と呼ばれていた緑豊かな島は有毒の火山ガスと酸性雨でほとんどの緑を失ってしまいました、島内の 45%は未だに立ち入り禁止(2007 年時点)。

・三宅島の写真



左側が 2000 年 噴火前、右側が 2004 年 噴火後。



2月11日(木)22:20 三宅島スタディー下見ツアー出発。
GNC スタッフ4名と板橋モンゴル孤児支援の会代表も参加で合計5名。



東海汽船の大型客船さるびあ丸。



船内 2等和室内。



客船のデッキ、出発当日は雨で風も強く三宅港は入港出来ない可能性がありました。



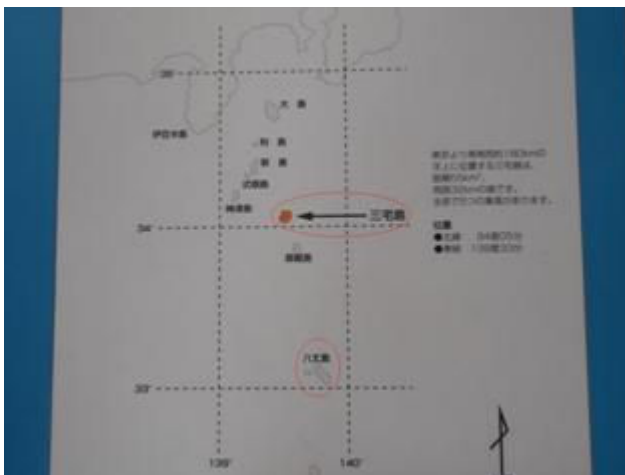
今回の旅行を案内して下さる旅職人の遠藤さんを誘い懇親会。



2月12日(金)早朝 海は荒れていて船は三宅島の港に入る事が出来ず、八丈島へ。



八丈島の港に押し寄せる波、八丈島も入港できませんでした。



このまま竹芝桟橋まで帰るのかと悔しい思いでしたが
波が穏やかになり三宅島に無事着きました、380Km の船旅でした。



2月12日(金)午後2:00頃 三宅島に到着。



三宅島の民宿 かまかわ。



民宿かまかわの女将の鎌川さん、とても料理上手。



GNC メンバーと鎌川さん。



三宅島郷土資料館 見学。



館内をととても親切に案内していただきました。



館内には三宅島の模型がありました。



郷土資料館前にある三宅村仮役場(元の役場は現在居住禁止区域のため)



三宅村役場 鎌田さんとの GNC スタディツアーについての打ち合わせ。



三宅村森林組合事務長 守屋さんの案内による雄山周辺の案内。



2000 年大噴火による森林への被害。



土石流の跡。



企業やボランティア団体による緑化活動、植林。



三宅村森林組合事務長 守屋さんのお話し
現場から見える事の重要性に GNC スタッフ達は耳を傾ける。



民宿で美味しい夕食の後はミーティング、今後の三宅島スタディツアー計画について。



2月13日(土)朝 富賀神社見学。



神秘の湖と呼ばれる新瀨。



新瀨跡、1983年のマグマ水蒸気爆発により消失した。



巨樹迷子椎の前での写真撮影。



島最大の大路池、三宅島では井戸と大路池が飲み水。



三宅島野鳥公園 アカコッコ館、アカコッコは2000年大噴火により数が少なくなり絶滅が心配されている。



アカコッコ館内にて、三宅島の自然・野鳥の説明を聞く。



2000 年三宅島大噴火の様子を TV で上映。



2 月に関わらず野鳥が観察できる。



アカコッコ発見、望遠鏡で撮影したのでぼやけていますが。



苗木畑に来ました。



植林する為の苗を育てています。



2000 年大噴火により泥流に飲み込まれた椎取神社。



1983 年噴火の溶岩流によって被害を受けた阿古温泉郷。





溶岩石が今も残る、旧阿古小学校。



溶岩流に流された車、写真左側がエンジン部分。



伊豆岬灯台にて撮影。灯台周囲の海は潮流が早く危険。



帰りの船がやってきました。



港には森林組合事務長の守屋さんが来てくれました。



守屋さんのとても貴重なお話しが聞けました。



港では地元の方々による獅子舞の披露。



三宅島出航、2月11日～13日の三宅島スタディー下見の旅は終わりました。
充実した3日間でした、三宅島役場・森林組合・旅職人・民宿かまかわの方々に
協力していただき今後の三宅島スタディーツアーにつながります。



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

GNC Japan ネットワーク部

2010年2月24日 長いこと休眠していましたGNCテーマサロンが再開されました。再開第1回の講師には ベトナムを始め東南アジア諸国で長期にわたり勤務され、さまざまなプロジェクトに取り組んでこられた三瀬 惇氏。

今回は《ベトナムの見方》《ベトナムの社会と文化》《ベトナムの領土拡張 — 南進》をテーマに現地での体験をまじえた興味深いお話をいただきました。

現在 三瀬氏は「奈良・ハノイ悠久の都を紡ぐ～鳥羽美花型染展」実行委員会(奈良遷都1300年・ハノイ建都1000年記念事業)事務局長として ご多忙の毎日を送っていらっしゃいます。詳細は [「katazomePDF.pdf」](#) をご覧ください。



初めて知るベトナムという国の興味深いお話にみなさん熱心に耳を傾けています。





出席者からの強い要望により 今後 数回にわたって 三瀬さまには お話していただくことになりました。興味の御有りの方は お気軽に ご参加ください。次回は 3 月 25 日(木)19 時～の予定です。

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

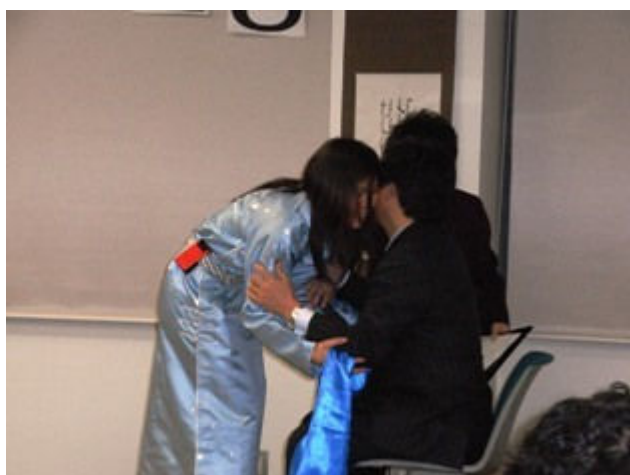
2月27日、今年も 在日モンゴル留学生会主催のツアガーデン・サル(モンゴルの旧正月)に出かけてきました。2007年から始まり 今年で4回目を迎えます。いつの間にか 私にとって年始に このツアガーデン・サルを みなさんとともに祝うことがとても楽しみになってきました。

日本語でツアガーデンは(白い)、サルは(月)という意味でツアガーデン・サルは「聖なる白い月」。7月11日の革命記念日を祝う祭りナーダムと並ぶ大イベントです。日付は旧暦を用いるので毎年変わるようです。今年は2月14日、モンゴルでは新年を迎えました。



お正月独特のヘヴィン・ボーブ(写真左)が飾られ、何百個もの留学生手作りのボーズやホショール(写真右)が準備されました。とても美味しかったです！

新年のあいさつはハタグ(青い布)を持って「アマルバイノー？ サイハンシネルジュバイノー？」(お元気ですか。良い新年を迎えましたか)と言いながら、年下の者が年上の両腕を下から軽く添えるように支え、お互いの頬を近づけます。



今年は 多くの留学生が民族衣装のデールを着ていて、一層雰囲気盛り上げていました。会場中のモンゴル人 日本人が お互いに アマルバイノー？ サイハンシネ

ルジュバイノー？と言いながらで、あいさつを交わしました。



駐日モンゴル国特命全権大使 レンツェンド・ジグジッド氏あいさつ



2010年留学生会会長 ドウルグーンさんのあいさつ



デナさんによる留学生会の年間活動紹介

マリンホール演奏や美しい歌声 飛び入りの日本の舞、フォークダンス 勝ちぬきクイズなど皆で 楽しいひと時を過ごしました。





GNCにとって懐かしいみなさんと再会できるのも楽しみの一つになっています。



2004年、GNC が初めてトジンナルスにアカマツを植林した当時の仲間のボジさん



2006年代表のデルメさん 力作の修士論文を見せてくれました。



2008年 農場での GNC エコ教室でお話ししてくれたテムレンさん



2008年会長ボルドマさん(中)と2007年代表トガさん(右)



民族衣装デール姿が凛々しいですねー2009年会長ゲレルトさん

こうして歴代の代表のみなさんが 顔を合わせる機会をどんどん作っていくことは とてもよいことだと思います。未来の可能性へ きっとつながるはずでしょう。



今年も ハワリンバヤル2010に向かって 力を合わせていきましょう！



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

リポート GNC Japan 矢野明子

2009 年 9 月に モンゴル国 セレンゲ県内植林地の植林後の経年変化を把握するため定点観測を実施しましたのでその報告書を掲載いたします。



[「20101.pdf」をダウンロード](#)

[「20102.pdf」をダウンロード](#)

↑

セレンゲ県における森林再生事業 植林地定点観測報告(2009 年 9 月実施)
(但し 掲載サイズの制限により 2部に分かれています。)

GNC Japan は 縁あって 2001 年から在日モンゴル留学生会のみなさんが主催する”ハワリンバヤル”(春 まつり 今年 は 5 月 2 日、3 日に練馬の光が丘公園で開催されます)のサポートをしています。

今年 [ハワリンバヤル 2010](#) のテーマは、

「青空の国に20年吹いた風、そしてこれから」

留学生会会長のドウルグーンさん(東京大学 2 年生の女子学生)からのメッセージ

「～今年は、このイベントを通して、日本人の方々にモンゴルの過去 20 年間の歴史を紹介するかたわら、モンゴル人には「エコ国」である日本から学ぶべきだと考える環境保護の重要性を強調し、取り上げたいと存じます。～」

、

光栄なことに今年は GNC Japan も モンゴルカレッジで 5 月 3 日午前中に 活動紹介をさせていただくことになりました。連日、少しずつ そのプレゼン用の資料を作成しつつあります。

ロシアとの国境地帯の永久凍土に横たわるアカマツの森林地帯が 火災や盗伐などの被害に遭い深刻な砂漠化の危機さらされています。そのため GNC Japan も 2004 年春から 森林再生植林に取り組み始めています。その活動も紹介をする予定です。





2006 年(植林 2 年後)には こんなに小さかった(20 cm くらい)アカマツの苗木(写真上)も 2009 年秋には 1m を越える高さにまで生長したものもあります。(写真下)

さらに 無事に生長を続け 10 年後、20 年後には きっと見上げるほどの高さに生長し、マツボックリをいっぱい実らせて そのマツボックリの中の種は風に乗って 遠くまで飛んで行って 次世代のアカマツがいっぱい芽を出すことになるはずです。おそらく私自身は、この目で確かめることはできないかもしれませんが……その分、次世代の若いスタッフたちに、しっかりと見届けてほしいと願っています。

少しでも現状よりよい方向へ変化した未来が実現するためには ほんのささやかな一歩でも勇気を持って踏み出すこと……ゼロはいつまでたってもゼロのままだから……

改めてこう思うのです。

GNC Japan スタッフ 矢野明子 記

今年のハワリンバヤルも、大勢の方がご来場してくださいました。
お天気が快晴で、春というより夏バヤルでした。



モンゴルカレッジにあわせて展示写真を「人との出会い編」に、チラシも一新しました。

そしてなにより、今年のハワリンバヤルでは、例年以上に多くの久しぶりの対面がありました。GNCの信条である “人とのつながり”を大事にしてきた結果だな と思います。



モンゴルカレッジ（5月3日）

「本当に役立つ国際協力ってなんだろう？」
というコンセプトで、人との出会いから広がっていく、モンゴルでの GNC の活動を紹介しました。



2日目の初回だったにもかかわらず、多くの方が聴講してくださいました。
モンゴルカレッジの後、**GNC**に興味を持ち、ブースに来てくださった方もいらっしゃいました。こうして活動が広がっていくのですね。
ハプニングは多少なりともありましたが、おかげ様で大盛況のうちに無事終了しました。ハワリンバヤル、そしてGNCブースに来てくださった皆さん、ありがとうございました。



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

GNC 共存の森づくりに 多くの皆様からの募金 & ご寄付をいただいております。
心から感謝申し上げます。

2009 年 12 月 吉田様	2100 円
2010 年 5 月 ハワリンバヤル募金	10893 円
絵葉書 クリアファイル売上	4850 円
フリーマーケット出店売上	14140 円
(光が丘公園)	
前回までの残金	2900 円

現在募金残高は

113,113 円(2010 年 5 月 9 日現在残高)

<銀行口座>

三菱東京 UFJ 銀行 江古田支店

口座番号: 1323869

名義: ジーエヌシー ミヤキ イッペイ

お振込みの際は森づくりへのご寄付とわかりますように
モリボキン(お名前)と明記いただきますようお願いいたします。
お問い合わせは 担当 矢野まで

kyouzongnc@gmail.com

GNC Japan では 2010 年 5 月 29 日から 5 月 31 日まで三宅島スタディツアーを実施いたしましたのでご報告します。

【三宅島スタディツアーの目的】

三宅島でのスタディツアーを通して、三宅島と現実の環境問題をよく広める事と緑化を進める上で、島民のみなさんと三宅島の全体的な復興に共に知恵を絞っていくことを目的としております。

モンゴルへ支援していた経験から、留学生も参加して三宅島を通して現実にある環境問題に触れ、世界の環境保全へと広げて欲しいです。



2010 年 2 月 11 日～13 日 三宅島スタディツアー現地下見、打ち合わせの様子
【三宅島について】

三宅島は東京都浜松町にある竹芝桟橋より船で約 6 時間 180kmの場所にありま
す、

周囲は約 38Km、面積 55.5Km、島の大きさは東京都足立区ほどです。

暖流の黒潮の影響で冬は暖かく夏は涼しい気候です。

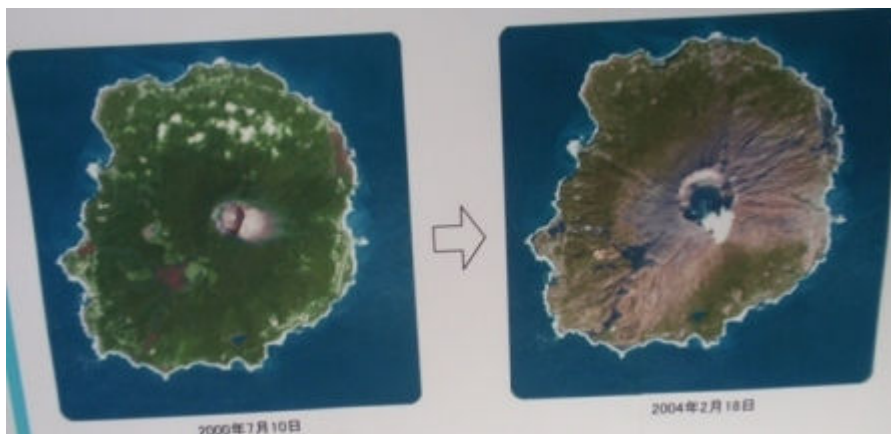
ダイビング・バードウォッチング・釣りなど、楽しめます。

三宅島では日本の野鳥の約 44%、240 種類が記録されています。



【三宅島の現状】

三宅島では、2000 年(平成 12 年)に、2500 年ぶりと言われる大噴火が発生しました。島の楽園と呼ばれていた緑豊かな島は、有毒の火山ガスと酸性雨により、森林の約 60%にあたるおよそ 2,500 ヘクタールが被害を受け、現在でも酸性が強い土地では植物さえも育たない状況です。



【三宅島スタディツアー2010 第 1 日目 2010 年 5 月 29 日】



出発前の集合写真、総勢 12 人



東海汽船さるびあ丸に乗船



在日モンゴル留学生 6 人左から、デルゲレナラン バヤルさん、エンフゾル バザルサドさん、ゾルザヤ ガンボルドさん、元在日モンゴル留学生会会長のボルドマー ジャルガルサイハンさん、在日モンゴル留学生会会長ドウルグーンさん、プレブドルジ オチルバトさん。



板橋モンゴル孤児支援の会代表 吉田さんによる手料理の差し入れ、とても美味しいです



5月30日 00:00 在日モンゴル留学生会会長ドウルグーンさんの誕生日お祝い会



誕生日ケーキのカット、お誕生日おめでとうございます



【三宅島スタディツアー2010 第2日目 2010年5月30日】

朝5時、三宅島到着



民宿 遊に到着



7:30 朝食



左:三宅島森林組合の守屋様、真ん中:三宅村産業振興課課長の山下様、右:三宅村産業振興課農林水産係の鎌田様が到着



風雨のため植林は明日に延期、本日は島内観光、三宅村産業振興課課長の山下様が御案内してくれます



1983 年噴火の被災説明、旧阿古小学校にて



2008 年 5 月完成の溶岩遊歩道



旧阿古小学校



幻の池 新瀧池



1983 年噴火によるマグマ水蒸気爆発により池は消失しました、
噴火の様子を説明



新澤池跡



アカコッコ館内の森林、噴火の被害が少ない地域



アカコッコ館、アカコッコは絶滅品種の三宅島の鳥の名前



アカコッコ館で説明を受ける



2000 年噴火の模様を撮影した DVD 上映、説明を受ける



アカッコ館での記念撮影



三宅島の木 椎(スダジイ)



大路池での記念撮影



お昼ごはんの海苔弁、海苔がとってもおいしいです



苦い味がたまらない竹の子と甘いお芋の差し入れをいただきました



溶岩鉢の作成体験、作り方の説明を受ける、溶岩鉢は産業廃棄物扱いですから持ち帰ることが出来ます、三宅島は富士箱根伊豆国立公園ですから溶岩は持ち帰ることが出来ません



溶岩鉢の作成中



みんなの溶岩鉢 完成しました



1962 年 8 月(昭和 37 年)の噴火で出来た三七山



三七山からの景色



椎取神社、噴火により鳥居が埋没



御祭神社、東光山満願寺



巨大な木



巨大な木の根はまるで洞窟のようです



伊豆岬灯台



伊豆岬灯台からの景色



三宅島郷土資料館、三宅島の模型



18:30 夕食勉強会



三宅島森林組合の守屋様、三宅村産業振興課農林水産係の鎌田様が到着



三宅島森林組合の守屋様のお話し



留学生も環境問題について興味があり勉強会は貴重な体験となりました



【三宅島スタディツアー2010 第3日目 2010年5月31日】7:30 朝食



民宿 遊の主人も加わり記念撮影



村営バスで植林地の雄山へ



2000 年噴火により立ち枯れした木々



土石流の跡



三宅島森林組合の守屋様から木々の説明を受ける



土石流 砂防ダム



植林する苗、ヤブツバキ、ヒサカキ、オオバイボタ、合計 120 本



三宅島森林組合の守屋様から作業手順についての説明



初めての植林



植林の様子



森林組合の方々から教わりながらの植林



鍬で掘り苗を植えます



かなり早いペースで植林は進みました



植林した苗



三宅村村長 平野様が到着



三宅村村長 平野さんのお話し



三宅島 雄山 120 本植林達成、記念撮影



三宅島森林組合の方々と撮影



伊豆七島展望台、見渡し良く快晴



日本におけるモンゴル最大のお祭りハワリンバヤル 2010 スタッフ T シャツ



透き通る海。

昼食時間、出航時間まで自由行動



錆が浜



三宅島森林組合の守屋様、三宅村産業振興課農林水産係の鎌田様が船着場に到着



東海汽船さるびあ丸が到着



もうすぐ出港、お別れに紙テープを投げます



民宿 遊の主人も来てくれました



もうすぐ三宅島ともお別れです



出港



島に滞在した 2 日間あっという間でした



以上、三宅島スタディツアー2010 報告でした

GNC Japan ネットワーク部

GNC Japan では 2010 年 5 月 29 日から 5 月 31 日まで三宅島スタディツアーを実施致しました。参加された在日モンゴル留学生の感想文をご紹介します。



【ドゥルグーン アマガランさん 現 在日モンゴル留学生会 会長
東京大学】

三宅島スタディツアーはとても有意義な2日間でした。色々なことが私にとって初めての経験でした。私は初めて日本の小さい島に行きましたが、三宅島の光景、自然の美しさ、そして何より人と自然の共存に感動しました。私の母国モンゴルには火山の噴火はありません。三宅島に初めて火山の被害、広域に渡る溶岩を見て驚きました。三宅島の住民は何回もの噴火を経験しながらその被害を乗り越えて暮らしていることは本当に立派なことだと思います。自然は生命力の強さを発揮するが、時には非常に敏感です。自然からたくさんもらっている私たちは自然と共存するためにサポートしなくてはなりません。今回の植林活動で少しでも貢献できたと思います。何よりも、この活動を通して環境問題に触れることで、環境保護の大切さ、その方法について学んだことです。これからより多くの人々に広げて行ければと思います。貴重な経験を与えて下さった GNC の皆さん、並びに三宅島の方々に感謝の気持ちをささげたいと思います。



【ボルドマー ジャルガルサイハンさん
元 在日モンゴル留学生会 会長
東京大学法学部 4 年】

「金色に輝く砂浜」

海のないモンゴルから来たこの私はなぜかこのようにしか思い浮かべることができない。

誰が、いつ、どのようにその金色の砂浜と海を見せたのかはわからない。しかしその

ように教わっていなかったら、おそらく三宅島の砂の色が普通だと思っていただろう。5 年前、浅間山に出かけたことがある。噴火の規模や失命者の数では三宅島のそれ以上に凄まじく、恐ろしく衝撃的だったのを今思い出す。しかし、この 5 年間一度もその恐怖を思い出し、語ることもなくすっかり忘れていたのである。人間は所詮こんなものなのだろうか。

「三宅島に木を植える」

高校を卒業する際の記念植樹のノリで行ってしまった。空の青い色以外すべて灰色な光景を目の前にしてとんでもない勘違いをしていたことに気づく。溶岩と泥流に埋もれた阿古小学校や椎取神社の遺跡から一枚、二枚と葉っぱを覗かず植物、枯れているが一生懸命そして堂々と立つ木々を見て、自分が植えようとする一本の苗木がこの島、この命らにとってどれだけ大きな意味をもつかを痛感した。

「山羊肉は温かいうちに」

このようなことわざがモンゴルにある。三宅島で感じたこと、教わったことは都会の生活に戻ればいずれかは忘れ去られるに間違いない。だからこそ、「なんとかしてこの島を復活させたい」、「2800 人の人口を噴火前の 6000 人に戻したい」という気持ちが燃え上がるうちにたくさんの人に伝え、行動に移したいと思う。

最後に、このような機会を与えてくださった GNC の皆様、三宅島の皆様、そして行動を共にしてくださった学生たちにも感謝の気持ちを捧げたい。



【ゾルザヤ ガンボルドさん

千葉大学大学院・人文社会科学研究科】

GNC の三宅島スタディツアーに参加させていただき、どうも有り難うございます。守屋さんの貴重なお話を聞き、三宅島の皆さんの気持ちと経験してきたことを理解しました。山下さんの島内観光案内を通じて、自然の破壊力のすごさを目で見て、感じることができました。鎌田さんと市民たちと一緒に植林をして非常によい体験ができました。大きく育つことを願っています。そして、何よりも手作りの溶岩鉢が、三宅島の思い出を浮かび上げる一品になっています。また機会があれば、植えたヤブツバキ、ヒサカキ、オオバイボタの育ちぶりを見に行きたいです。



【デルゲレナラン バヤルさん
一橋大学】

このスタディー・ツアーに参加する前に私は噴火した火山を見たことがありませんでした。

テレビ番組で見たが、実際に、三宅島へ行って、火山の被害を見たら、景色が圧倒的だった。島を見学して、島の人々の話をききながら、彼らの逞しさを感じました。いくら島の生活が危険であっても、村の人々は故郷を慕って暮らしていると思います。島の森林を回復するために、木を植える。しかし、火山から毎日多量の酸素が空中に出て、植物が生えないようにしています。毎年改善しているみたいで、山のそこで木を植えました。

この二日間のスタディー・ツアーがとても楽しかった。泊まっていた旅館からの海の景色がすばらしかった。釣ったばかりの魚の刺身が美味しかった。できれば来年も後輩たちに薦めたいのです。

以上、三宅島スタディツアー2010 参加留学生の感想文でした。

GNC Japan ネットワーク部

GNC Japan では 2010 年 7 月 24 日に君津環境整備センターへの見学を実施いたしましたのでご報告します。

【君津環境整備センター見学の目的】

管理型産業廃棄物最終処分場である君津環境整備センターを見学し、生活上で発生する産業廃棄物を周辺環境を守りつつ、どのように最終処理を行うかを見学して、モンゴルでのエコ授業で報告する。

【君津環境整備センターの場所について】

君津環境整備センターは、千葉県南部、房総丘陵のほぼまん中にあります。

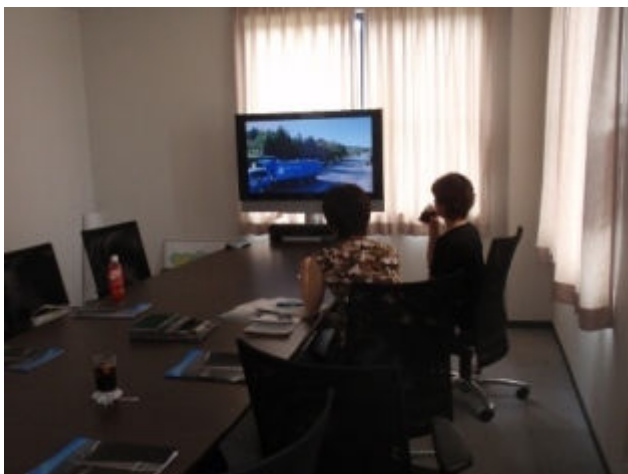


【君津環境整備センターについて】

首都圏の産業廃棄物を埋め立てています、埋め立てた廃棄物から発生する浸出水の土壌への浸水を防ぎ、浸出水処理施設によりきれいな水に再生後に河川に放流しています。(第一期:埋立面積 53000 m²、埋立容量 107 万 m³)



君津環境整備センター入り口



センターの紹介映像の放送中



センターでの廃棄物処理の安全対策と設備についての説明、
遮水シートが、廃棄物から発生する浸出水を漏らさない構造に



廃棄物から発生する浸出水、最新技術の自己修復シートで実演



自己修復シートに穴を開ける



水が漏れる



ほんの数秒で穴が塞がる



塞がった穴



遮水シートの説明、遮水シートは二重化にしており安全性を更に高める



【8 層に及ぶ遮水構造】

1.短繊維不織布(10mm) 2.遮水シート(1.5mm)3.短繊維不織布(10mm)4.漏水検知システム 824 個(824 本)精度 1M 単位 5.遮水シート(1.5mm)6.自己修復シート(4mm)7.短繊維不織布(10mm)8.基礎地盤遮水層



処分場は 20 年に一度起きるか起きないかの降雨強度を想定して敷設、調整池は 50 年に一度起きるか起きないかの降雨強度を想定して造っているそうです



遮水シート



浸出水処理施設、設備の二重化等を図り安全性を高めています



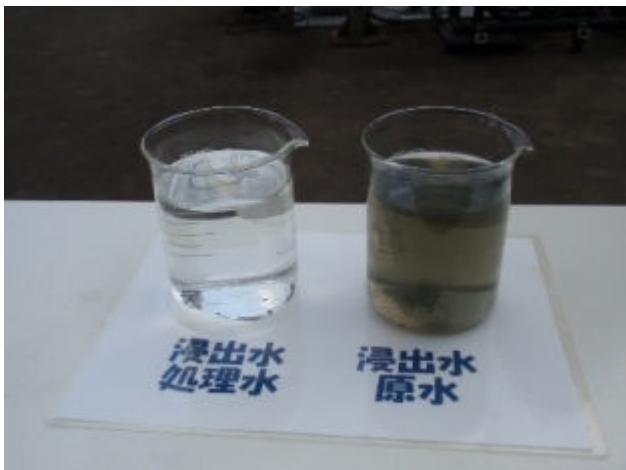
処理水槽内



処理水槽内部



浸出水から処理水への過程を見学



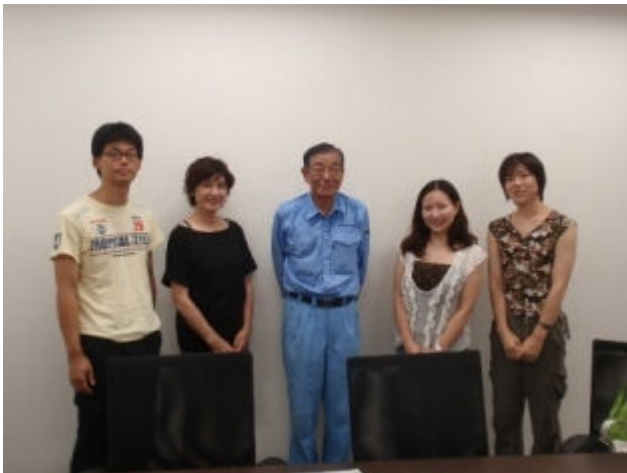
左が処理水、右が原水



処理水でめだかが飼育され、処理水の安全性強調している



ダンプに付着した廃棄物の洗浄中、処分場外へ廃棄物が出ないように対策



案内をしてくれた職員の方と



チラシをいただきました、千葉県内の不法投棄 834 地点では未撤去のまま、処理費用には 1500 億円。

浸出水による土壌汚染が心配されます。

最後に、感想です。

最終処分場が本当に安全なのか？と問われると、簡単に「そうだ」とは言えないでしょう。けれども、一度見学に行くのは面白いと思います。メディアによる、「近くに出来て欲しくない」「将来的に本当に安全とは言えない」という言い分を植えつけられすぎているように感じます。

「すぐ近くに住んでいないから、近所に住んでいる人の気持ちが分からない」と言われればそれまでです。しかし地元の方は、「自分たちが出したゴミを自分たちの地域で処理するんならいいよ。けど、あっちこっちから持ってきて全部ここに捨ててくのはね…」とも言っていました。

知ったかぶりをするのではなく、私達自身が直接眼で見て、話を聞いて、「知ろうとする」ことは大事なのではないのでしょうか？

以上、君津環境整備センター見学の報告でした。

GNC Japan ネットワーク部

2010 年も、モンゴル国での森づくりにはたくさんの企業 & 団体の皆様のご協力をいただきました。

モンゴルの人々、GNC と一緒に 将来、森林が青々と蘇る日を楽しみに見守っていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



植林実施日 5 月 10 日～5 月 20 日

植林地:モンゴル国

植林樹種:ヨーロッパアカマツ(学名:Pinus sylvestris)

セレンゲ県

スフバートル周辺 トジンナルス

愛・地球博「日・モ友好の森」

緑の募金中央事業 5 年もの苗 100 本 (再植林)

チョロート周辺

・「2010GNC 共存の森」

株式会社KSGインターナショナル 20000 本 15ha

SOTO禅インターナショナル 25000 本 10ha

グリムスプロジェクトチーム 12000 本 5ha

・「日・モ友好の森」

緑の募金中央事業 50000 本 20ha

・「2010GNC 生命の森」

全国エコフィン特約店葬儀社(18 社) 25500 本 10ha

・「エコフィン生命の森」 [トライウォール株式会社](#) 30000 本 10ha

中央県

バットスブル村（モンゴル国立大学演習林内）

「2010 日・モ友好の森」

緑の募金中央事業 3500 本 1ha

「下里英恵さまメモリアル」 4000 本 2ha

バヤンチャンドマン村周辺

・「2010GNC 共存の森」

株式会社みづま 2000 本 1ha

株式会社コープ葬祭 500 本 0.3ha

2010 年度 新規GNC植林総計 13 万 8500 本 57.3ha 再植林 100 本

お手伝いした企業&個人メモリアル植林

34000 本 12ha

2004 年～通算 ・GNC の森 66 万 500 本 239.8ha 再植林 1 万 6100 本

・お手伝いした企業&個人メモリアルの森

13 万 9000 本 49.5ha

総計 79 万 9500 本 289.3ha

2010 年「GNC の森」にご支援いただいた企業&団体(敬称略)

[国土緑化推進機構](#)（緑の募金）中央事業

[株式会社KSG インターナショナル](#)（2008 年～）

[SOTO 禅インターナショナル](#)（2009 年～）

[グリムプロジェクトチーム](#)（2009 年～）

[株式会社みづま](#)（2009 年～）

全国ご協力葬儀社(19 社) 総計 25500 本植林

・埼玉葬祭事業組合 埼玉こすもす 2008～

・天国社 2008～

・株式会社コープ葬祭 2008～

・いわて生活共同組合 セリオ・センター 2008, 2010

・北海葬祭 株式会社 2009～

・有限会社 花心 2009～

・株式会社 ビンク 2009～

・小金井祭典 株式会社 2009～

・株式会社 ねぎし 2009～



特定非営利活動法人 GNC Japan
<http://www.kyouzon-gnc.com>

- ・有限会社 平和カスケツト 2009～
- ・有限会社 ピースパン 2009～
- ・有限会社 ツキダテ商店 2009～
- ・有限会社 豊徳 2009～
- ・株式会社 メモリアル・ニッソー 2009～
- ・株式会社 公益社 2009～
- ・株式会社 ロマンティア 初
- ・阿波スピンドル 株式会社 初
- ・株式会社 丸忠 初
- ・株式会社 タルイ 初

2010 年植林作業報告 速報



以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

・植林作業実施概況

植林実施日	2010 年 5 月 10 日～5 月 20 日の期間			
植林場所	モンゴル国セレンゲ県チョロート周辺			
植林地名 本数・面積	トライウォール社	エコフィン生命の森	約 30000 本	約 10ha
	KSG インターナショナル社	GNC 共存の森	約 20000 本	約 10ha
	SOTO 禅インターナショナル	GNC 共存の森	約 25000 本	約 10ha
	グリムスプロジェクトチーム	GNC 共存の森	約 12000 本	約 5ha
	エコフィン特約店	生命の森	約 25500 本	約 10ha
	緑の募金	日・モ友好の森	約 50000 本	約 20ha
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> の2年生苗木			
作業	ジャムスレン氏(セレンゲ県森林調査センター長) オトゴンバット氏(セレンゲ県森林調査センター職員) セレンゲ県スフバートル市の学生約 60 名他			

・植林場所



図 1. 広域図 (2008,2009,2010 年植林地)

表. 植林実施位置（2010 年植林地の代表的な緯度経度）

北緯	50° 1.9898'
東経	106° 14.9738'

・植林地写真



写真 1. 植林地遠景



写真 2. 植林状況写真

南北の溝を掘り、溝の底に植林することにより、日射を減らし乾燥化を防ぐ

・植林作業写真



写真 3. 植林作業

・植林作業を手伝っていただいた方々の集合写真



写真 10. 集合写真

昨年度に続き、今年もGNCのエコツアーに参加させていただきました。
今年は私が青年海外協力隊でボランティア活動をしている
モンゴルのNGO「持続可能な発展のためのジェンダーセンター」の
スタッフ1名も一緒に参加させていただきました。

私は現在、ウランバートル市郊外にあるゲル地区とよばれる低所得者、
失業者、地方からの移住者が多い地区で活動をしています。
今年はその地区に緑化活動をする目的で学校の校庭への植林などを
行ってきました。

今回、私がスタッフを同行させていただいたのは、この緑化活動に
関して先駆的に成果をあげて活動を展開しているGNCの活動から
学ぶことが多いにあると考えたからです。
緑化に関するマニュアル本やいろんな情報はモンゴルにもあふれています。
しかし、「百聞は一見に如かず」という言葉の通り、住民参加で
実際に具体的な活動を行っているGNCの活動そのものから
同じような緑化活動を志すひとりのモンゴル人として、私の
同僚にもいろんなことを感じて欲しいと思い参加したのです。

結果として、私の想像以上に同僚は興味関心を示してくれました。
実は彼女は今年から緑化プログラムの担当となり、右も左もわからない
状態でした。そんな中で専門的知識や経験のあるGNCのスタッフみなさまと
つながることができたことに安堵の表情を見せていました。

また、バヤンチャンドマニの住民の方と話をする中で、私たちの活動地域である
住民と共通の水遣りにかんする悩みなどを共有したり、
村内中心部へ植えられた木の植え方のデザインをみて感心したり、
苗畑で樹木の植え方の違いを観察したり、とさまざまな発見があり、
私の同僚もメモを頻繁にしていました。

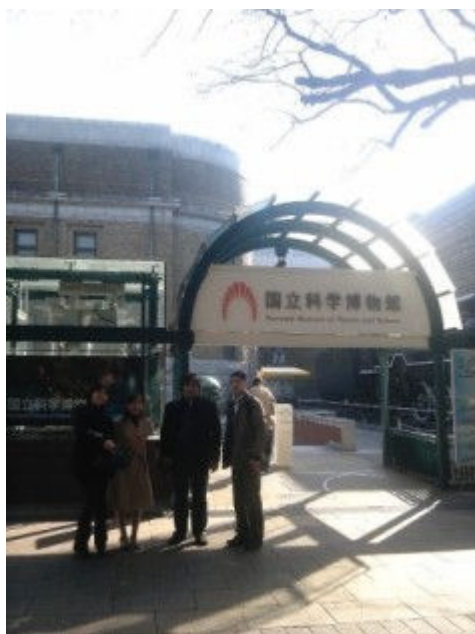
GNCの名前の頭文字のひとつ「ネットワーク」という言葉の通り
同僚および私の活動しているNGOがGNCとつながりを持てたことは
とてもありがたいことだと感じています。また、GNCが培われてきた経験や専門を
寛大に共有してくださったことにとても感謝しています。
ありがとうございました。



青年海外協力隊 牛嶋久子(右)

同僚 持続可能な発展のためのジェンダーセンター 地域おこしセンタースタッフ
アリヨナー)

GNC Mongolia のツォゴーさんとバットゾリグさんが 12 月 10 日にモンゴル国から来日しました、12 月 11 日は上野の国立科学博物館の見学に行ってきました。



国立科学博物館前。



写真左側がツォゴーさん(モデル農場担当)、右側がバットゾリグさん(苗畑管理担当)。



モンゴル語で説明している様子。

館内の企画展「あしたのごはんのために-田んぼから見える遺伝的多様性-」を見学。明治初期には日本の稲は 4000 種類ありましたが、今では効率性や人々の好みで 88 品種までに減少。ひとつの品種に頼りすぎると全滅する恐れがあり、多種多様性が必要ということでした。



企画展では食材を輸入することで食材の生産に必要な水も一緒に輸入していることがしめされていました。牛丼 1 杯に水が 1000 リットル使用され（主に牛の飼育などで）、輸送には石油も使用されています。



「科学と技術の歩み」見学。

二人がとても興味のあるところだったらしく、たくさん写真をとってました。



「たいけん広場-身近な科学-」で体験中。

子供に混じって遊びました。二人とも大はしゃぎ。



屋上のハーブガーデン見学。

まるでミニチュアの公園のようでした。



屋上のパラソル広場にて休憩中。

合間に、モンゴルの農場での出来事や経験してきた貴重な話を聞けました。

明日はミーティングがあります。今回ツォゴーさんとバットゾリグさんも参加し、これまでの報告と今後のGNCの活動について話し合います。

GNC Japan ネットワーク部

モンゴル国から来日中の GNCMongolia のツォゴーさんとバットゾリグさんが参加し、GNCミーティングと 2010 年忘年会を行いました。



朝 10 時、手作りの朝食をとりながらミーティング前の話し合い。

メンバーの中には、数年ぶりの再開となる人もいました。



モンゴルからのお土産「サジ(チャツアルガン)の実」、モンゴルではジュースにして飲みます。

ビタミン C が豊富で、美容にもいいとか。



13 時 30 分ミーティングスタート、今年の事業報告と来年の事業計画の打ち合わせ。



モデル農場事業報告中のツォゴーさん。



ホワイトボードに図面を書き日光温室についての説明中のツォゴーさん。



バットゾリグさんによる苗畑事業についての報告。バットゾリグさんの通訳は日本語が上手なツォゴーさん。



18 時から 2010 年忘年会、モンゴル人留学生達も参加しました。

楽しいひとときを過ごすことが出来ました、来年も良い年になりそうです。

GNC Japan ネットワーク部